

第8回研究会（5/18）以降の関連動向（1/3）

資料3

- 第8回の研究会以降における、非財務情報の開示に関連する主要な動向は以下の通り。

日付	トピック
5/19	内閣官房、非財務情報可視化研究会（第5回）を開催、報告書骨子のたたき台について協議 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/wgkaisai/hizaimu_dai5/gijisidai.pdf
5/20	金融庁、金融審議会「ディスクロージャーワーキング・グループ」（第9回）を開催、有価証券報告書へのサステナビリティ情報開示提案を含む報告書案を協議 https://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/disclose_wg/siryu/20220523.html
5/20	G7財務大臣・中央銀行総裁会議、共同声明でISSBの取組を歓迎 https://www.mof.go.jp/policy/international_policy/convention/g7/cy2022/index.html
5/23	FASF、サステナビリティ基準委員会の委員長及び委員、サステナビリティ基準諮問会議の議長及び委員を選任 https://www.asb.or.jp/jp/wp-content/uploads/news_release_20220523.pdf
5/25	IFRS財団、5/16に開催したサステナビリティ基準の地域WGの議事概要を公表 https://www.ifrs.org/news-and-events/calendar/2022/may/jurisdictional-working-group/
5/25	IFRS財団、VRF（IIRC）との統合に関連し、統合報告フレームワークの今後の位置づけについて公表 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/05/integrated-reporting-articulating-a-future-path/
5/25	IFRS財団、デジタル・レポーティングに向けた、IFRSサステナビリティ開示タクソノミの将来開発に関するスタッフ・ペーパーに対する意見募集を開始、期日は7月29日 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/05/staff-request-for-feedback-to-inform-future-development-of-ifrs-sustainability-disclosure-taxonomy-for-digital-reporting/
5/26	FASF、SSBJ設立準備委員会（第8回）を開催、ISSB公開草案に対するコメント案を検討 https://www.asb.or.jp/jp/ifrs/proceedings-ssbj/y2022/2022-0526.html

第8回研究会（5/18）以降の関連動向（2/3）

- 第8回の研究会以降における、非財務情報の開示に関連する主要な動向は以下の通り。

日付	トピック
5/30	IFRS財団、サステナビリティ基準アドバイザー・フォーラムのメンバー募集を開始。期日は7月11日 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/05/sustainability-standards-advisory-forum-call-for-candidates/
5/31	EFRAG、ESRS公開草案の「結論の根拠」を公表 https://www.efrag.org/News/Public-361/EFRAG-issues-the-set-of-Basis-for-conclusions-of-its-ESRS-Exposure-Dra
5/31	経団連、SECの気候関連開示規則案に対するコメントを公表 https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/054.html
6/1	PRI、WBCSD、IFAC、サステナビリティ開示基準の検討を進めているISSB、SEC、EUに対して、サステナビリティ開示基準の互換性を求める共同声明を公表 https://www.ifac.org/knowledge-gateway/contributing-global-economy/discussion/leading-financial-market-participants-call-stronger-alignment-regulatory-standard-setting-efforts
6/2	SASB、インターネットメディア・サービス業界他、5業界のSASB業種別基準について審議会で改訂推奨を表明 https://www.sasb.org/wp-content/uploads/2022/06/Recommended-Changes-Press-Release-Final.pdf
6/3	農水省、食品事業者を対象とした「TCFD提言に基づく気候関連リスクの情報開示の手引書（実践編）」を公表 https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/220603.html
6/7	EU理事会と欧州議会、企業の取締役会の女性比率について、2026年までに33%超を求める法定目標設定について合意 https://www.consilium.europa.eu/en/press/press-releases/2022/06/07/council-and-european-parliament-agree-to-improve-gender-balance-on-company-boards/
6/8	IFRS財団、追加選任したISSBボードメンバー4名を公表。 https://www.ifrs.org/news-and-events/news/2022/06/ifrs-foundation-trustees-appoint-four-further-members-to-the-issb/

第8回研究会（5/18）以降の関連動向（2/3）

- 第8回の研究会以降における、非財務情報の開示に関連する主要な動向は以下の通り。

日付	トピック
6/10	SSBJ、ISSB公開草案（産業別開示要求）に関して、11セクター毎にアウトリーチ（意見聴取）の実施を公表 https://www.asb.or.jp/jp/info/146368.html
6/13	金融庁、「ディスクロージャーワーキング・グループ報告」－中長期的な企業価値向上につながる資本市場の構築に向けて－を公表 https://www.fsa.go.jp/singi/singi_kinyu/tosin/20220613.html

統合報告フレームワークの今後の位置づけについて

- 5月25日に、IASB審議会議長とISSB審議会議長の共同声明の形式で、VRFが保有する「統合報告フレームワーク」と「統合的思考に関する原則」の将来の位置づけを公表
- VRFがIFRS財団に統合された後も、統合報告フレームワークの積極的な採用と拡大について利用者に推奨すると共に、IASB・ISSBの基準設定にあたって統合報告フレームワークの考え方を利活用することを表明。

5/25のIFRS財団に公表した「Integrated Reporting—articulating a future path」のサマリー

IFRS財団としての取組方針	<ul style="list-style-type: none">● IFRS財団（IASB・ISSB）は統合報告フレームワークに関する取組に責任を負う。● 具体的には、<ul style="list-style-type: none">➢ 統合報告フレームワークの継続的な採用・適用の拡大を利用者に推奨➢ IASB・ISSBにおける基準設定検討において、統合報告フレームワークの考え方を利活用➢ IFRS 実務記述書「経営者による説明」と統合報告フレームワークの相違点に対する対応➢ 統合報告フレームワークの考え方に基づく、企業報告フレームワークの策定と保持
市場とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">● 以下に関するエンゲージメント・プログラムを実施予定<ul style="list-style-type: none">➢ 統合報告フレームワークをIASB・ISSB両審議会に適応したものに発展させるプロセスへの理解➢ 統合的思考に関する原則の利用と開発
VRFに組成されている組織の今後	<ul style="list-style-type: none">● 統合報告フレームワーク委員会 IFRS財団の統合時に役割を終了。委員会のメンバーは統合報告フレームワークの利活用に関するプロジェクトに関連するアドバイザリー組織のメンバーとして招集予定● 統合報告カウンスル IFRS財団の統合後2年間継続し、その後の存続についてIFRS財団評議員会で検討